

令和3年度文部科学省委託事業
「専修学校留学生の学びの支援推進事業」

留学生に関する 実態把握アンケート調査報告書

日本語学校対象

令和3年12月調査

一般社団法人大阪府専修学校各種学校連合会

◇調査方法

調査対象：法務省告示校

※令和3年度10月22日法務省告示第215号

調査方法：インターネット調査（アンケート）

調査期間：2021年11月24日～12月16日

回答数：115

◇INDEX

P01	1. 調査概要／INDEX
P02	2. 回答者属性
P04	3. 本調査
P04	1-1 留学生の入国状況
P05	1-2 定員充足率
P06	1-3 入学辞退状況
P07	1-4 中途退学状況
P08	2-1 学費納入に関する相談
P09	2-2 学費納入困難者に対する対応
P10	2-3 渡日前留学生への学習ケア
P11	2-4 留学生の心配・悩み
P12	2-5 コロナ禍での授業実施状況
P13	2-6 コロナ禍による経済支弁者の経済状況
P14	2-7 コロナ禍による母国の経済状況
P15	2-8 コロナ禍による母国の経済状況が及ぼす日本留学への影響
P16	3-1 留学生の進路
P17	3-2 進学先への要望
P18	3-3 進路指導の課題
P21	3-4 進学先エリアの選定
P24	4-1 政府や自治体への要望
P25	4-2 専門学校と日本語学校に関わるイベントへの期待
P26	4-3 大専各への意見や要望

2 回答者属性

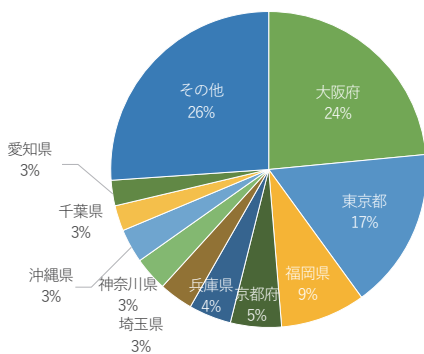
◇設置者および収容定員・在籍者数

回答数：115件

在籍者数：日本語教育の学科対象	収容定員数：日本語教育の学科対象					割合	総計
	100人以下	200人以下	500人以下	1,000人以下	1,500人以下		
学校法人立	25.5%	25.5%	40.0%	7.3%	1.8%	47.8%	55
100人以下	35.9%	33.3%	30.8%	0.0%	0.0%	33.9%	39
200人以下	0.0%	9.1%	81.8%	9.1%	0.0%	9.6%	11
500人以下	0.0%	0.0%	20.0%	60.0%	20.0%	4.3%	5
その他法人立（株式会社立）	38.6%	24.6%	29.8%	7.0%	0.0%	49.6%	57
100人以下	48.9%	26.7%	24.4%	0.0%	0.0%	39.1%	45
200人以下	0.0%	28.6%	71.4%	0.0%	0.0%	6.1%	7
500人以下	0.0%	0.0%	20.0%	80.0%	0.0%	4.4%	5
個人立	33.3%	0.0%	66.7%	0.0%	0.0%	2.6%	3
100人以下	33.3%	0.0%	66.7%	0.0%	0.0%	2.6%	3
200人以下	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0
500人以下	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0
割合	32.2%	24.3%	35.7%	7.0%	0.9%	100.0%	115
総計	37	28	41	8	1	115	

◇学校所在地

回答数：115件



◇所属学生出身上位国・地域／今後募集に力を入れて行きたい国・地域

回答数：115件

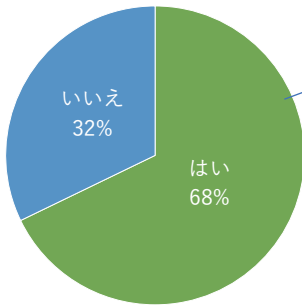
	所属学生出身上位国・地域（複数回答可/上位3つまで）		今後募集に力を入れていきたい国・地域（複数回答可/上位3つまで）	
中国	60.0%	69	57.4%	66
ベトナム	74.8%	86	40.9%	47
ネパール	33.9%	39	25.2%	29
韓国	6.1%	7	8.7%	10
台湾	14.8%	17	26.1%	30
スリランカ	8.7%	10	9.6%	11
インドネシア	14.8%	17	19.1%	22
ミャンマー	12.2%	14	14.8%	17
タイ	2.6%	3	9.6%	11
バングラデシュ	12.2%	14	7.8%	9
オーストラリア	0.0%	0	1.7%	2
米国	2.6%	3	5.2%	6
欧州	3.5%	4	18.3%	21
その他	12.2%	14	11.3%	13

2 回答者属性

◇大専各「留学生委員会」への認知

回答数：115件

大専各「留学生委員会」が、留学生向けホームページの開設などの活動をしていることを知っていましたか？



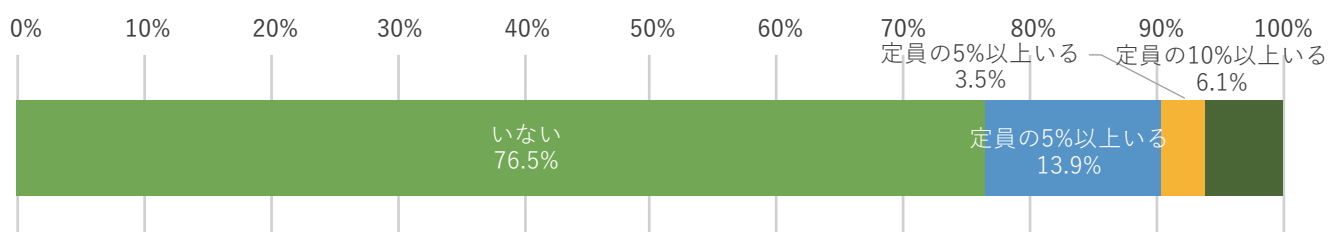
設置者別	設置者数	設置者数に対する認知率
総計	115	67.8%
学校法人立	55	70.9%
その他法人立（株式会社立）	57	66.7%
個人立	3	33.3%

1-1 留学生の入学状況

2021年10月時点までの留学生入学状況について、75.6%の学校が「いない」と回答をした。一部、入学できている学校もあるが、全体の10%以上の学生が入学できた学校は6.1%に留まった。入学できた留学生が「いる」と回答した学校は、東京、大阪、広島入管担当が比較的多いが、東京入管担当校では5%以上入学できた学校がないなど、依然として留学を希望する学生の入学が難しい状況が続いている。

◇今年度、入学できた留学生は、何人ぐらいいますか？

回答数：115件



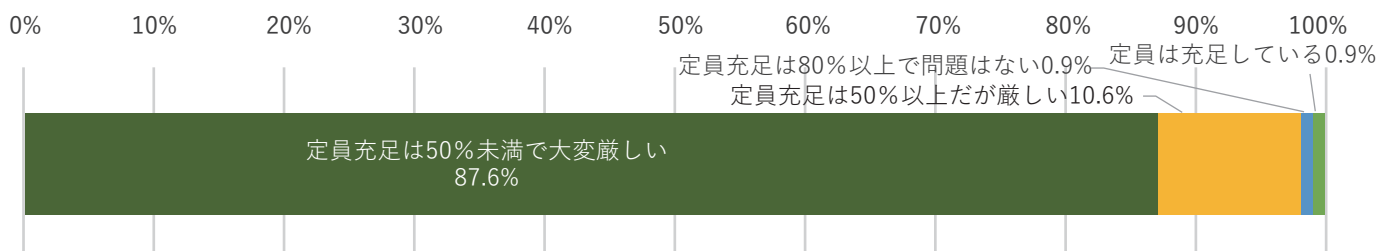
入管担当	総計	いない	定員の5%未満いる	定員の5%以上いる	定員の10%以上いる
札幌	北海道 (n=2)	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%
仙台	宮城県 (n=2)	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%
	福島県 (n=1)	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
東京	栃木県 (n=2)	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%
	群馬県 (n=1)	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	埼玉県 (n=4)	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	千葉県 (n=3)	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%
	東京都 (n=19)	84.2%	15.8%	0.0%	0.0%
名古屋	神奈川県 (n=4)	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%
	石川県 (n=1)	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	福井県 (n=1)	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	静岡県 (n=2)	50.0%	0.0%	0.0%	50.0%
	愛知県 (n=3)	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
大阪	三重県 (n=1)	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	京都府 (n=6)	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%
	大阪府 (n=27)	85.2%	3.7%	0.0%	11.1%
	兵庫県 (n=5)	80.0%	0.0%	0.0%	20.0%
	奈良県 (n=1)	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
広島	和歌山県 (n=2)	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	岡山県 (n=2)	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%
	広島県 (n=2)	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%
高松	山口県 (n=1)	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
	香川県 (n=1)	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
福岡	福岡県 (n=10)	80.0%	0.0%	20.0%	0.0%
	佐賀県 (n=1)	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	長崎県 (n=2)	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	熊本県 (n=1)	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	大分県 (n=1)	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	宮崎県 (n=2)	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	鹿児島県 (n=1)	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
沖縄県 (n=4)	75.0%	0.0%	0.0%	25.0%	

1-2 定員充足率

今年度の定員充足状況について「定員充足は50%未満で大変厳しい」と回答した学校が87.6%、「定員充足は50%以上だが厳しい」10.6%とあわせ、現在の状況を厳しいと回答した学校は全体の98.2%となった。一部問題ないという回答をしている学校もあるが、地域限らずいずれも前項の入国状況の影響もあって厳しい経営状況が続いている。

◇定員充足状況について教えてください

回答数：113件



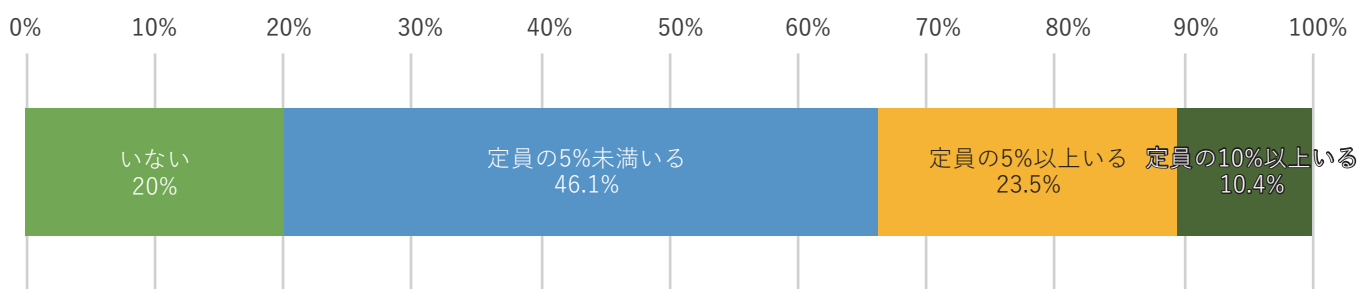
入管担当	総計	定員充足は50%未満で大変厳しい	定員充足は50%以上だが厳しい	定員充足は80%以上で問題はない	定員は充足している
札幌	総計	87.6%	10.6%	0.9%	0.9%
仙台	北海道 (n=2)	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	宮城県 (n=2)	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%
東京	福島県 (n=1)	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	栃木県 (n=2)	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	群馬県 (n=1)	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	埼玉県 (n=4)	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	千葉県 (n=3)	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	東京都 (n=19)	94.7%	5.3%	0.0%	0.0%
	神奈川県 (n=4)	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
名古屋	石川県 (n=1)	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
	福井県 (n=1)	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
	静岡県 (n=2)	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	愛知県 (n=3)	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%
	三重県 (n=1)	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
大阪	京都府 (n=5)	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	大阪府 (n=27)	85.2%	14.8%	0.0%	0.0%
	兵庫県 (n=5)	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	奈良県 (n=1)	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	和歌山県 (n=2)	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
広島	岡山県 (n=2)	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	広島県 (n=2)	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	山口県 (n=1)	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
高松	香川県 (n=1)	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
福岡	福岡県 (n=10)	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	佐賀県 (n=0)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	長崎県 (n=2)	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	熊本県 (n=1)	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	大分県 (n=1)	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	宮崎県 (n=2)	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	鹿児島県 (n=1)	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	沖縄県 (n=4)	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%

1-3 入学辞退状況

留学生の入学辞退状況について、最も多い回答は「定員の5%未満いる」で46.1%、続いて「定員の5%以上いる」が23.5%、「定員の10%以上いる」が10.4%で辞退者のいる学校は全体で80%にも上った。さらに、入学辞退があった学校に対して辞退理由を尋ねたところ「新型コロナウイルスによる影響」と回答した学校が全体の97.8%、その他回答の学校も新型コロナウイルス水際対策の影響による「入国制限」を理由に挙げており、その影響は深刻であることがわかる。

◇今年度、入学辞退者はいますか?(2021年10月現在)

回答数：115件



◇「いる」と回答いただいた方への質問です。主な辞退理由を教えてください。

回答数：92件

入学辞退者	入学辞退理由	
	コロナ禍による影響	その他
いない	0	0
定員の5%未満いる	56.5%	1.1%
定員の5%以上いる	28.3%	1.1%
定員の10%以上いる	13.0%	0.0%

〔その他理由・自由回答〕

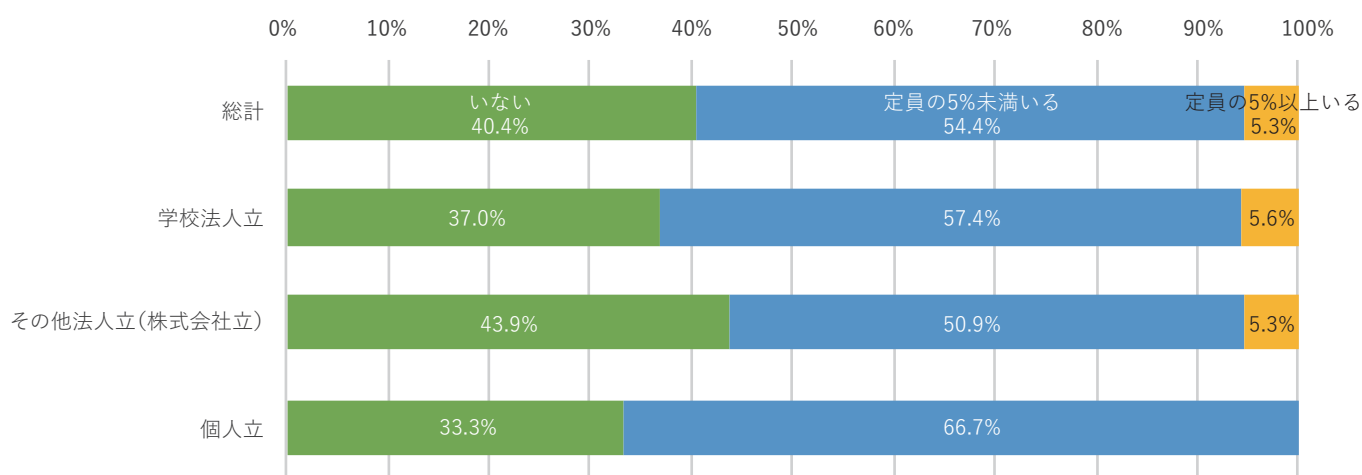
- ・入国の目途が立っていなかったため
- ・日本の入国制限が長引いたことによる辞退

1-4 中途退学状況

入学辞退者同様に、2021年10月までに入学をした留学生の中途退学状況について尋ねた。中途退学者が「定員の5%未満いる」が54.4%、「定員の5%以上いる」が5.3%。中途退学者がいると回答した学校は全体の59.6%だった。設置者別にみていくと、個人立と学校法人立の学校で辞退者数が若干多い傾向、特に収容定員数の多い学校で中途退学者が多くみられた。

◇今年度、現在までに中途退学者はいますか？

回答数：114件



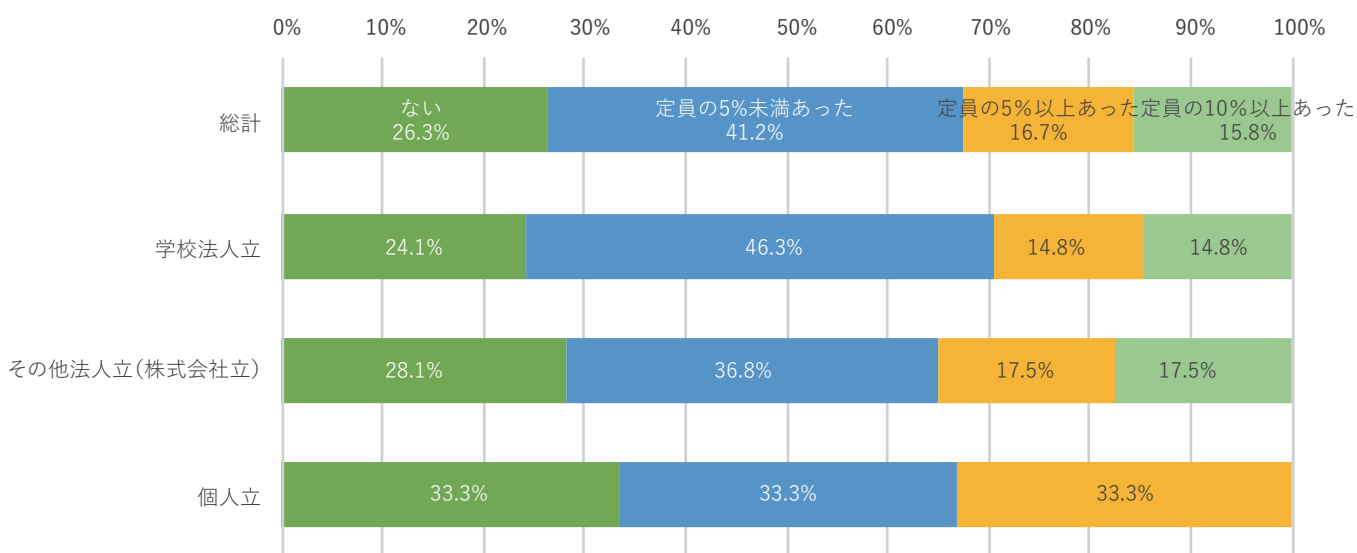
		いない	定員の5%未満いる	定員の5%以上いる
総計 (n=114)		40.4%	54.4%	5.3%
収容定員数	学校法人立 (n=54)	37.0%	57.4%	5.6%
	100人以下 (n=13)	92.3%	7.7%	0.0%
	200人以下 (n=14)	35.7%	57.1%	7.1%
	500人以下 (n=22)	13.6%	81.8%	4.5%
	1,000人以下 (n=4)	0.0%	75.0%	25.0%
	1,500人以下 (n=1)	0.0%	100.0%	0.0%
	その他法人立(株式会社立) (n=57)	43.9%	50.9%	5.3%
	100人以下 (n=22)	72.7%	27.3%	0.0%
	200人以下 (n=14)	42.9%	57.1%	0.0%
	500人以下 (n=17)	17.6%	76.5%	5.9%
	1,000人以下 (n=4)	0.0%	50.0%	50.0%
	個人立 (n=3)	33.3%	66.7%	0.0%
	100人以下 (n=1)	100.0%	0.0%	0.0%
500人以下 (n=2)	0.0%	100.0%	0.0%	

2-1 学費納入に関する相談

学費納入に関する相談状況については「定員の5%未満であった」41.2%が最も多く、次いで「ない」が26.3%。「定員の5%以上あった(16.7%)」「定員の10%以上あった(15.8%)」と相談が一定数以上あった学校は32.5%となった。さらに、出身国別に見ると、ベトナム、ネパール、スリランカ、インドネシア、ミャンマー、バングラデシュで「定員数10%以上」の回答が多く、学費に関する相談が最も少なかったのは台湾(「ない(41.2%)」)であった。

◇今年度、学費納入に関する相談はありましたか？

回答数：114件



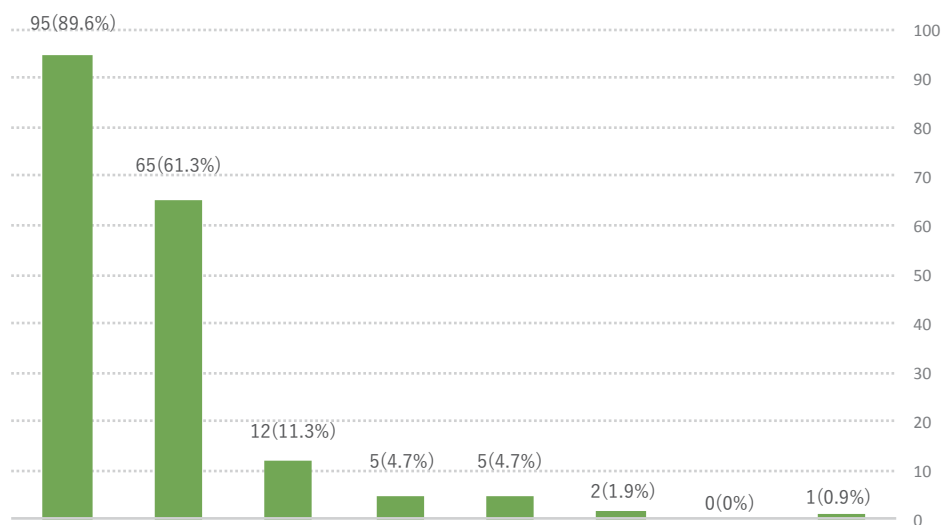
		ない	定員の5%未満あった	定員の5%以上あった	定員の10%以上あった	
所属学生出身・地域	中国	(n=69)	20.3%	53.6%	20.3%	5.8%
	ベトナム	(n=86)	25.6%	38.4%	17.4%	18.6%
	ネパール	(n=39)	28.2%	38.5%	10.3%	23.1%
	韓国	(n=7)	28.6%	57.1%	14.3%	0.0%
	台湾	(n=17)	41.2%	41.2%	11.8%	5.9%
	スリランカ	(n=10)	20.0%	30.0%	20.0%	30.0%
	インドネシア	(n=17)	11.8%	41.2%	35.3%	11.8%
	ミャンマー	(n=14)	14.3%	28.6%	21.4%	35.7%
	タイ	(n=3)	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
	バングラデシュ	(n=14)	14.3%	57.1%	0.0%	28.6%
	オーストラリア	(n=0)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	米国	(n=3)	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
	欧州	(n=4)	25.0%	75.0%	0.0%	0.0%
	その他	(n=13)	38.5%	46.2%	7.7%	7.7%

2-2 学費納入困難者に対する対応

学費納入が困難な学生に対する対応としては、「分割納入を実施」が最も多く、89.6%の日本語学校で実施。次いで「納入期限延期を実施」が61.3%。「減額を実施」はその他法人立(株式会社立)のみ実施していた。一方で、学校法人では「貴校奨学金制度(給付・貸与)を新設(7.7%)」と独自の奨学金を設ける学校もあり、設置者により対応が分かれる結果となった。

◇学費納入が困難な学生に対する貴校の対応をお聞かせください。
(複数回答可/3つまで)

回答数：106件



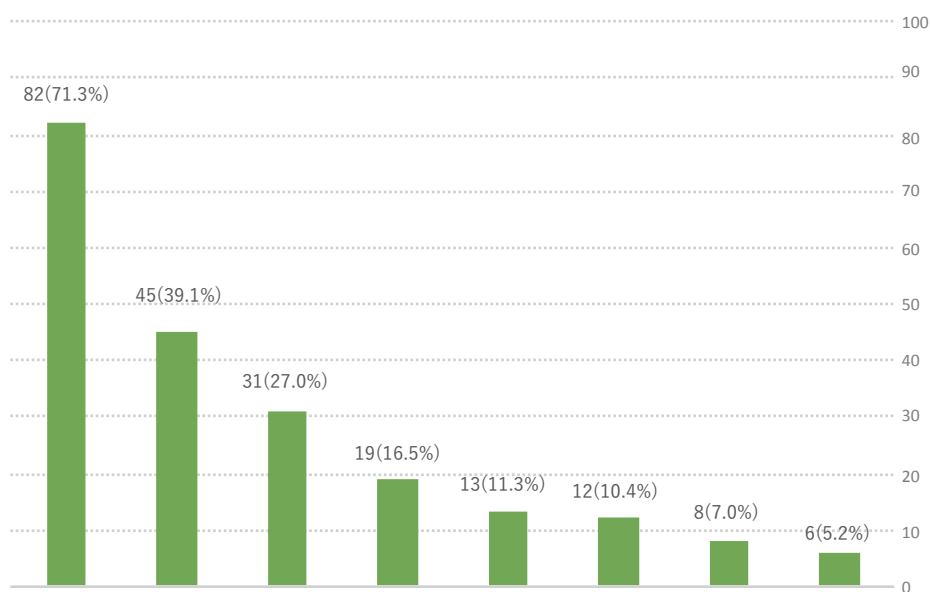
		分割納入を実施	納入期限延期を実施	奨学金制度の紹介	貴校奨学金制度(給付・貸与)を新設	特に対応していない	減額を実施	定額の給付金の実施	その他
総計	(n=106)	89.6%	61.3%	11.3%	4.7%	4.7%	1.9%	0.0%	0.9%
学校法人立	(n=52)	86.5%	65.4%	11.5%	7.7%	5.8%	0.0%	0.0%	1.9%
その他法人立(株式会社立)	(n=51)	94.1%	58.8%	11.8%	2.0%	2.0%	3.9%	0.0%	0.0%
個人立	(n=3)	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%

2-3 渡日前留学生への学習ケア

渡日前学生のケア、学習サポートについては「オンラインを利用したリモート授業を実施」が71.3%で最多。その他、「現地教育機関と連携(39.1%)」「メールでの状況確認(27.0%)」「動画などのオンデマンド授業(16.5%)」などが続いた。「オンライン授業を利用したリモート授業を実施」は在籍者数の多い学校ほど導入率が高く、小規模な学校では「現地教育機関と連携」「メールでの状況確認」など手厚い対応が行われていることがわかった。

◇渡日前留学生のケアはどのように行っていますか?または行いましたか?
(複数回答可/3つまで)

回答数：115件



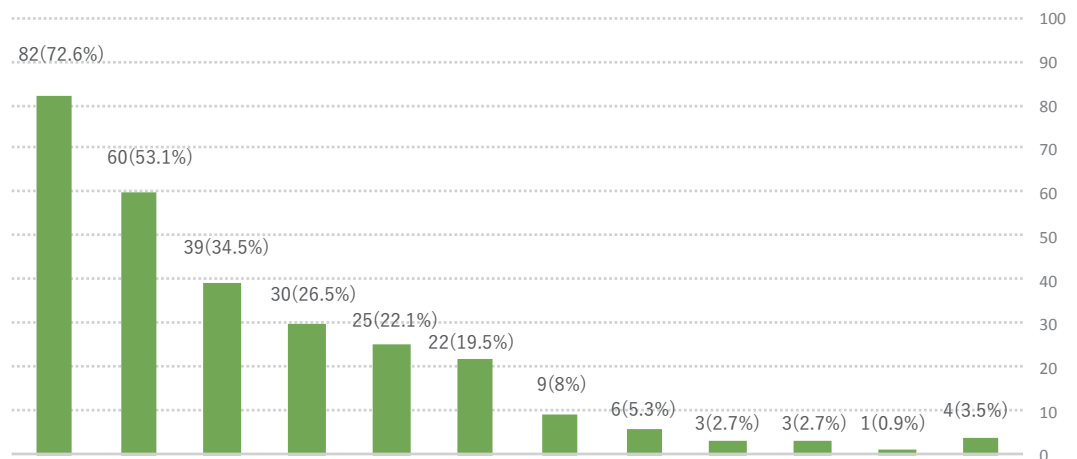
			オンラインを利用したリモート授業を実施	現地教育機関と連携	メールでの状況確認	動画などのオンデマンド授業	確認テストで授業を行っている	自習	特に対応していない	その他
総計		(n=115)	71.3%	39.1%	27.0%	16.5%	11.3%	10.4%	7.0%	5.2%
在籍者数	100人以下	(n=87)	66.7%	41.4%	25.3%	16.1%	8.0%	10.3%	8.0%	4.6%
	200人以下	(n=18)	77.8%	44.4%	22.2%	22.2%	22.2%	16.7%	5.6%	11.1%
	500人以下	(n=10)	100.0%	10.0%	50.0%	10.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%

2-4 留学生の心配・悩み

現在、日本語教育機関で感じている留学生の心配・悩みは「経済面」が最も多くて72.6%、「目標とする日本語レベルの達成(53.1%)」も半数以上の回答が集まった。学生の出身国別所属状況ごとに見ていくと、「経済面」「アルバイト探し」の項目で、ベトナムやネパール、スリランカ、ミャンマー、バングラデシュ、韓国などで回答率が高く、学費納入の設問で「学校への相談があった」の回答率が高い国と同様の傾向となった。中国では回答率が全体的に低い傾向があり、心配・悩みが少ないことがわかる。韓国、台湾では「目標とする日本語レベルの達成」「日常の学習進度」などの日本語学習に関する項目での回答率が高い傾向にあり、出身国別に心配や悩みの違いが見られた。

◇今年度、留学生の主な心配・悩みを教えてください(複数回答可/3つまで)

回答数：113件



		経済面	目標とする日本語レベルの達成	アルバイト探し	健康(感染)	日常の学習進度	メンタルヘルス	各種の手続き	言いたいことが伝わらない	人間関係	文化・宗教と生活	相談相手がない	その他
総計 (n=113)		72.6%	53.1%	34.5%	26.5%	22.1%	19.5%	8.0%	5.3%	2.7%	2.7%	0.9%	3.5%
所属学生出身上位国・地域	中国 (n=68)	70.6%	52.9%	32.4%	26.5%	19.1%	26.5%	8.8%	7.4%	2.9%	2.9%	0.0%	2.9%
	ベトナム (n=85)	75.2%	55.3%	36.5%	30.6%	23.5%	14.1%	4.7%	3.5%	1.2%	3.5%	1.2%	3.5%
	ネパール (n=39)	79.5%	35.9%	38.5%	35.9%	15.4%	5.1%	17.9%	7.7%	2.6%	2.6%	0.0%	5.1%
	韓国 (n=7)	71.4%	71.4%	57.1%	0.0%	57.1%	28.6%	0.0%	0.0%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%
	台湾 (n=17)	58.8%	70.6%	17.6%	17.6%	23.5%	35.3%	11.8%	0.0%	5.9%	0.0%	0.0%	11.8%
	スリランカ (n=10)	70.0%	50.0%	40.0%	30.0%	20.0%	10.0%	10.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	10.0%
	インドネシア (n=16)	68.8%	50.0%	31.3%	31.3%	12.5%	31.3%	0.0%	6.3%	0.0%	6.3%	0.0%	6.3%
	ミャンマー (n=14)	85.7%	64.3%	35.7%	7.1%	35.7%	14.3%	0.0%	0.0%	7.1%	0.0%	0.0%	0.0%
	タイ (n=3)	66.7%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%
	バングラデシュ (n=14)	78.6%	57.1%	50.0%	35.7%	7.1%	7.1%	7.1%	7.1%	0.0%	14.3%	0.0%	0.0%
	オーストラリア (n=0)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	米国 (n=3)	100.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%
	欧州 (n=4)	50.0%	50.0%	25.0%	25.0%	25.0%	50.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他 (n=13)	69.2%	38.5%	46.2%	15.4%	7.7%	15.4%	15.4%	15.4%	0.0%	7.7%	0.0%	0.0%

2-5 コロナ禍での授業実施状況

コロナ禍における授業の実施状況では「オンラインを利用したリモート授業を実施(78.9%)」と多くの日本語教育機関でオンライン授業を取り入れており、「課題レポートの提出(34.2%)」や「教科書などの事前配布(23.7%)」などと組み合わせて授業を行っていることがわかる。一方で「特別な対応はしていない(11.4%)」学校や、「授業動画をインターネット上に公開(7.0%)」などオンデマンド授業を実施している学校も少ないことから、語学学習におけるコミュニケーションを重視する日本語教育機関の姿勢が見える。

◇コロナ影響下での現在までの授業の実施状況をお聞かせください
(複数回答可/3つまで)

回答数：114件

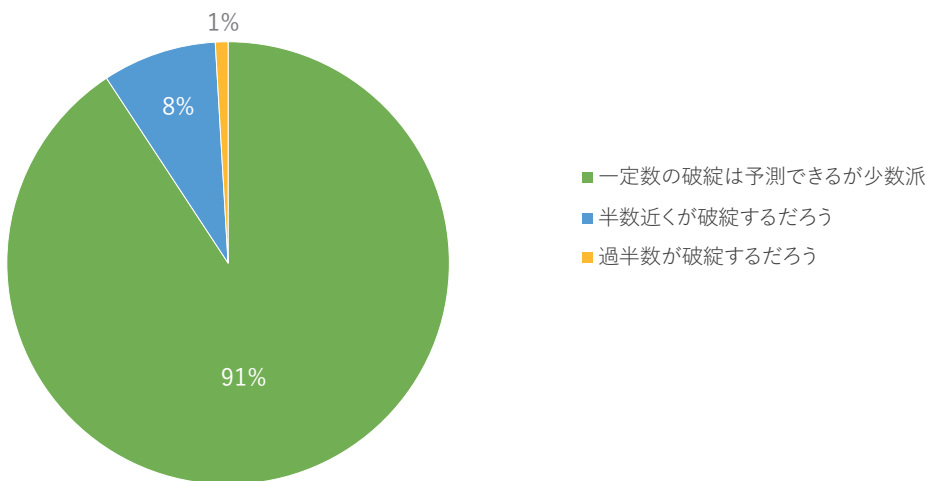


2-6 コロナ禍による経済支弁者の経済状況

留学生の経済支弁者(主に親)の経済状況について、91%の学校が「一定数の破綻は予想できるが少数派」と回答しており、多くの学校でコロナ禍による保護者の経済破綻は少ないと考えている。

◇コロナ禍による留学生の経費支弁者(主に親)の経済状況について、
実感を教えてください。

回答数：108件

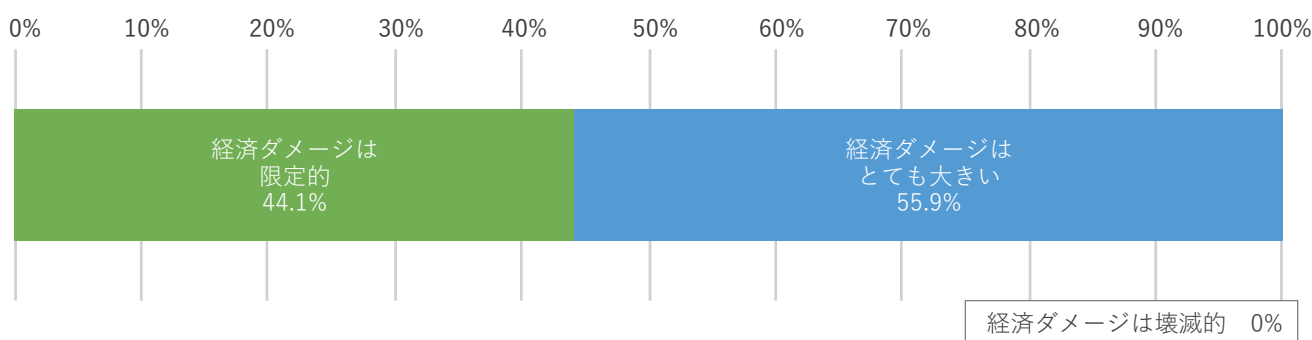


2-7 コロナ禍による母国の経済状況

コロナ禍による留学生の母国(主要出身国)の経済状況についての実感としては、「経済ダメージは壊滅的」という回答は見られなかったが、「経済ダメージはとても大きい」が55.9%と「経済ダメージは限定的(44.1%)」をやや上回った。留学生の主要出身国ごとに見てみると、他の経済状況にかかわる質問と同様にベトナムやスリランカ、インドネシア、ミャンマー、タイといった出身国の学生が多い学校で「経済ダメージはとても大きい」を回答している割合が高かった。

◇コロナ禍による留学生の母国(主要出身国)の経済状況について、
実感を教えてください。

回答数：111件

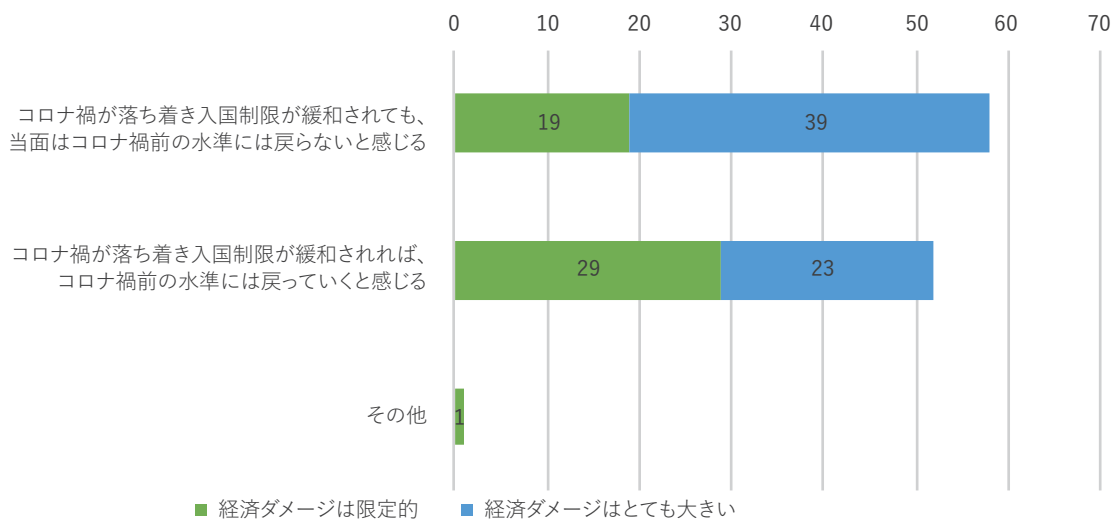


		経済ダメージは限定的	経済ダメージはとても大きい	経済ダメージは壊滅的
総計	(n=111)	44.1%	55.9%	0.0%
所属学生出身上位国・地域	中国	(n=66) 57.6%	42.4%	0.0%
	ベトナム	(n=85) 41.2%	58.8%	0.0%
	ネパール	(n=39) 43.6%	56.4%	0.0%
	韓国	(n=7) 57.1%	42.9%	0.0%
	台湾	(n=16) 50.0%	50.0%	0.0%
	スリランカ	(n=10) 40.0%	60.0%	0.0%
	インドネシア	(n=17) 29.4%	70.6%	0.0%
	ミャンマー	(n=14) 14.3%	85.7%	0.0%
	タイ	(n=3) 33.3%	66.7%	0.0%
	バングラデシュ	(n=14) 42.9%	57.1%	0.0%
	オーストラリア	(n=0) 0.0%	0.0%	0.0%
	米国	(n=3) 66.7%	33.3%	0.0%
	欧州	(n=4) 100.0%	0.0%	0.0%
	その他	(n=13) 38.5%	61.5%	0.0%

2-8 コロナ禍による母国の経済状況が及ぼす日本留学への影響

母国(主要出身国)の経済状況による日本留学への影響は「コロナ禍が落ち着き入国緩和がされても、当面はコロナ禍前の水準には戻らないと感じる」が「コロナ禍前の水準には戻ると感じる」の回答数を上回った。前問の回答とあわせてみると、留学生の母国の経済ダメージが大きいと回答した学校のほうがより、「コロナ禍前の水準には戻らないと感じる」と回答をした。入国緩和以降も日本留学への影響は大きく各校の留学生対応や経営に関する問題はしばらく続く見込み。

◇前問「コロナ禍による留学生の母国(主要出身国)の経済状況について、実感を教えてください。」に付随して、今後、日本留学への影響を感じるか教えてください。 回答数：111件

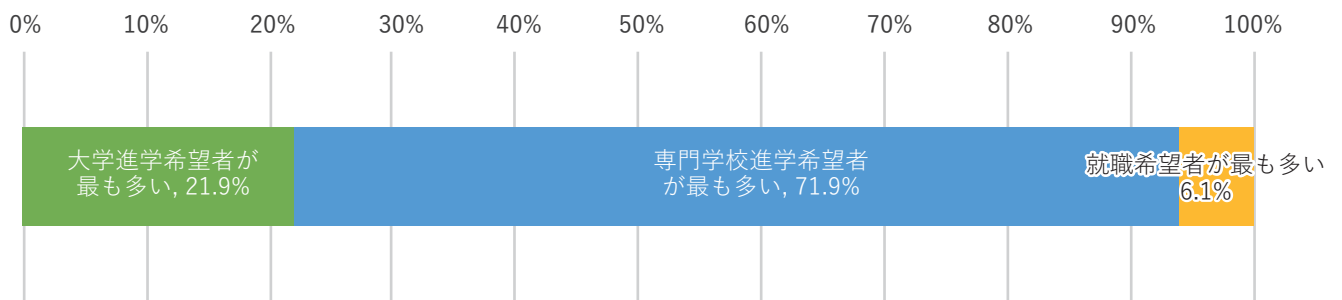


3-1 留学生の進路

卒業後の進路は「専門学校進学希望者が最も多い」学校が一番多く71.9%、「大学進学希望者が最も多い」学校は21.9%、「就職希望者が最も多い」学校は6.1%だった。国・地域別にみると、中国、韓国、台湾、タイ、米国の学生が多い学校では「大学進学志望者が最も多い」傾向があり、ベトナム、ネパール、スリランカ、ミャンマー、バングラデシュの学生が多い学校では「専門学校進学志望者が最も多い」傾向が見られた。

◇留学生の卒業後の進路について

回答数：114件

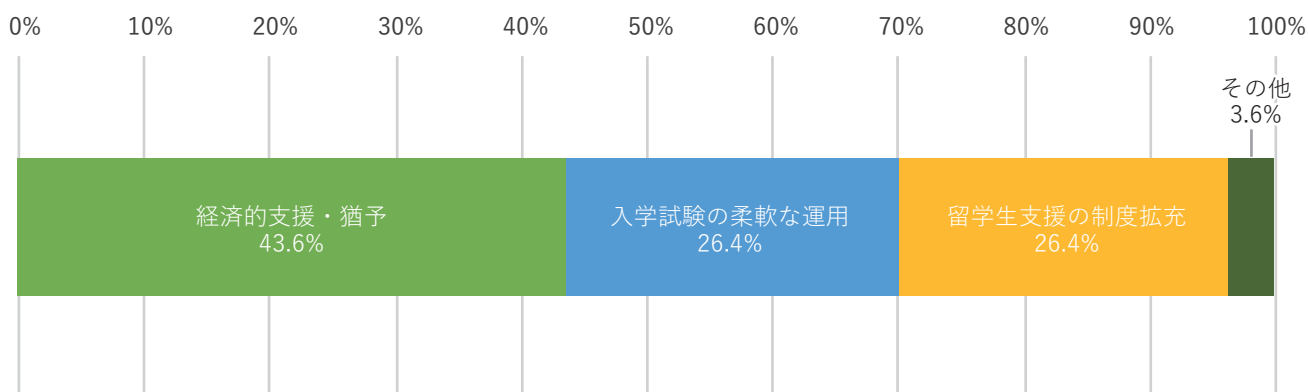


		大学進学希望者が最も多い	専門学校進学希望者が最も多い	就職希望者が最も多い
総計		(n=114) 21.9%	71.9%	6.1%
所属学生出身上位国・地域	中国	(n=69) 34.8%	60.9%	4.3%
	ベトナム	(n=86) 12.8%	83.7%	3.5%
	ネパール	(n=39) 7.7%	84.6%	7.7%
	韓国	(n=7) 42.9%	42.9%	14.3%
	台湾	(n=17) 47.1%	41.2%	11.8%
	スリランカ	(n=10) 0.0%	100.0%	0.0%
	インドネシア	(n=17) 23.5%	76.5%	0.0%
	ミャンマー	(n=14) 7.1%	85.7%	7.1%
	タイ	(n=3) 66.7%	33.3%	0.0%
	バングラデシュ	(n=14) 7.1%	85.7%	7.1%
	米国	(n=3) 66.7%	0.0%	33.3%
	オーストラリア	(n=0) 0.0%	0.0%	0.0%
	欧州	(n=4) 25.0%	25.0%	50.0%
	その他	(n=14) 14.3%	57.1%	21.4%

3-2 進学先への要望

進学先の学校への要望については、「経済的支援・猶予」が最も多く43.6%。前項の卒業後の進路別にみていくと、「大学進学希望者が一番多い」学校では、「入学試験の柔軟な運用」が高く45.8%。「経済的支援・猶予」は、「専門学校志望者が多い」「就職希望者が最も多い」学校でより重視される傾向にあった。

◇進学先の学校(大学・専修学校)への要望を教えてください。(いずれか一つ) 回答数：110件



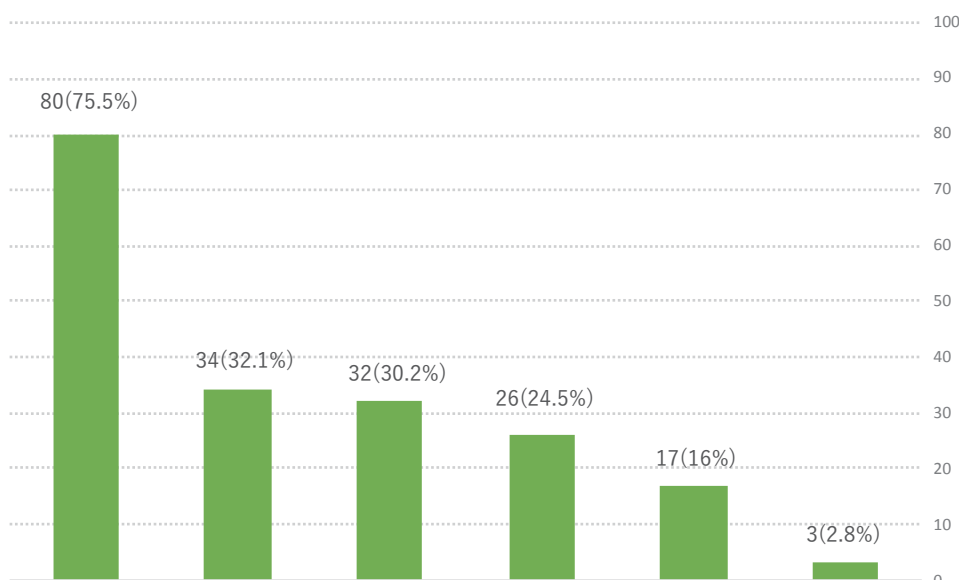
		経済的支援・猶予	入学試験の柔軟な運用	留学生支援の制度拡充	その他	
総計	(n=110)	43.6%	26.4%	26.4%	3.6%	
卒業後の進路	大学進学希望者が最も多い	(n=24)	20.8%	45.8%	29.2%	4.2%
	専門学校進学希望者が最も多い	(n=80)	50.0%	20.0%	26.3%	3.8%
	就職希望者が最も多い	(n=6)	50.0%	33.3%	16.7%	0.0%

3-3 進路指導の課題

進路指導の課題として最も多かったのは「日本語能力の不足」で75.5%。特に、就職希望者が最も多い学校で回答率が高い傾向にあった。その他は希望進路ごとにばらつきが見られた。「大学進学が最も多い」学校では、「進学に対する姿勢」を回答した学校が他よりも高く、平均よりも13.7ポイント高い結果となった。コロナ禍で入国制限の影響を受け、海外現地から学習をしていたり、オンライン授業が導入されたことで直接指導ができないことから「日本語能力不足」「進学に対する姿勢」などの項目が進路指導の課題となっている可能性が高い。

◇留学生の「進路指導」についての今年の課題を教えてください。
(複数回答可/3つまで)

回答数：106件



		日本語能力不足	進学に対する姿勢	就職指導	大学入試対策	専門学校入試対策	その他	
総計	(n=106)	75.5%	32.1%	30.2%	24.5%	16.0%	2.8%	
卒業後の進路	大学進学希望者が最も多い	(n=24)	79.2%	45.8%	33.3%	29.2%	4.2%	0.0%
	専門学校進学希望者が最も多い	(n=76)	73.7%	28.9%	28.9%	23.7%	19.7%	3.9%
	就職希望者が最も多い	(n=6)	83.3%	16.7%	33.3%	16.7%	16.7%	0.0%

3-3 進路指導の課題

前問の「進路指導」に関する課題に対する具体的な理由を挙げてもらった。入国時期の遅れや、それに伴う日本語学習の遅れに関する項目、就職難などの回答が目立った。

◇前問「留学生の「進路指導」についての今年の課題」について理由を具体的に教えてください。

回答数：70件

- ・オンライン授業を受けながら進学を目指している学生が、入国緩和を期待して申し込んでいたEJU・JLPT共に受験できないことから、当初の進学先を受験できないなど進路の変更を余儀なくされる。
- ・来日が遅れたこと
- ・特に未入国の学生に対しての進路指導がリモートで行っているため対面でやるよりやりにくいと感じているし、受験校によってコロナ禍での対応が違うため複雑である。
- ・入国時期が遅れたことによる
- ・入国時期が遅れたため
- ・コロナ禍で、日本語学校卒業では就職が厳しい。特定技能へ切り替える学生も出てきているため。
- ・就職を希望する学生に対して、一度出た内定が取り消されるケースがあった。
- ・学生の希望先がN1を持っていないと入社できない
- ・コロナ禍で、就職が厳しい。
- ・コロナの影響で求人が激減している
- ・自分のレベルより下または上過ぎるレベルの学校を選んだり、こちらから声かけするまで動かなかったりする学生が例年より多い印象
- ・オープンキャンパス等参加できていない。
- ・進路決定の時期が遅い
- ・応募要件に達していない学生の志望校の決定、大学院の研究計画(テーマ)が定まらない学生への指導に時間がかかっている。
- ・自分の将来のことを見据えて考えられない学生が多く全体的にモチベーションが低い
- ・ずっと来日できない状況でもあることから、日本での生活や学業に対するイメージが固まらない。
- ・入国時期遅れていることにより日本語能力低下
- ・対面授業が出来ず、リモート授業が主になり授業での日本語に理解のに苦しみ、例年の留学生より理解の速度が遅いのが顕著にみられる。
- ・通常より学習期間が短いため
- ・オンライン授業などにより、到達目標に達しない学生が出ている。
- ・コロナの影響による学習の遅れ
- ・入国遅れによる学習時間の減少
- ・日本語能力に個人差があるため
- ・入学時期が遅く日本語（特に会話）レベルがまだまだ
- ・学習時間が圧倒的に足りない。
- ・コロナの影響により入学が遅れ通常授業が行われていない期間があるため
- ・オンライン授業の学生は授業以外で日本語を話す機会があまりないため
- ・オンラインの授業では会話や聴解の力などに限界がある
- ・入国の遅れが少なからず影響している。
- ・募集要項に書かれている内容が理解できない。
- ・コロナ禍における学習進度への影響等から、通常なら到達しているはずの水準に到達できていない学生が少なくないため、進学、就職希望の学生全般に対する指導が必要
- ・日本語学習期間が不足していることが大きいと思われます。
- ・コロナの影響があり、入国ができるタイミングで入国させているため、本来の入学時期とは異なる学生がかなりいる。また、通常より手続きが複雑だったため、入国遅れもあり、本来の学習期間よりずっと短い期間で卒業時期を迎える学生が出ている。
- ・コロナ感染症の影響により、学習期間及び学習効果は前年と異なっている。その理由で、留学生は日本語の上達にも影響される。
- ・日本語科の1年及び1年半コースでは、少し力不足の感は否めない。
- ・オンライン指導で不足する内容を補うため
- ・まずは入学試験に申し込むことのできるN2の取得、EJUの高得点が必要とされているから。

3-3 進路指導の課題

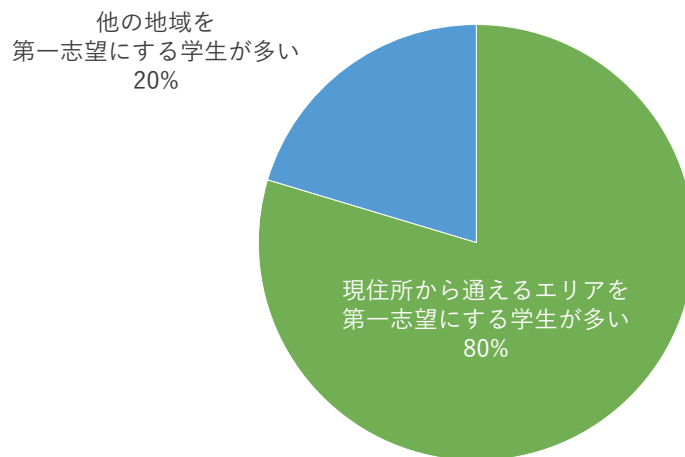
- ・オンラインが多ければ多いほど成果が出にくい。ペアを組んでの発話の機会も限定的になる。指導形態が全体的に限定的になる。
- ・コロナ禍で対面授業が大きく減り、語学としての学習活動の形態にも大幅な制限がかかり、成果につながりにくい。
- ・緊急事態宣言が出ている間オンラインを行ったが、何の身にもなっておらず、受験するまでのレベルに至らない学生が多かったため。
- ・基本的には進学希望の学生が大半。しかし、対面授業の減少により日本語力が伸び悩み、その事が少なからず受験に影響する
- ・コロナ禍により、対面授業が十分行われなかったため
- ・オンライン授業が続き、対面での指導時間が不足している
- ・学習期間が短く、オンライン授業で到達目標レベルに達せず、会話力が低い
- ・オンライン授業が続き、会話力が伸び悩んでいる。JLPTやEJUが受けられず大学の出願資格を満たせない。
- ・日本語能力試験対策等、教科書や問題集中心の学習に偏りがちになってしまい、コミュニケーション能力に不足を感じる。
- ・数回の緊急事態宣言によりオンライン授業により日本語進捗度が明らかに落ちた。
- ・コロナの影響で日本語能力不足が感じられる。また、就職希望者が増えてきているが、中々厳しい状況である。
- ・入国が遅れたことによる日本語能力不足
- ・オンラインではなかなか日本語力が伸びないため
- ・卒業年度の学生は概して入国時期が遅いため、対面での学習期間も短く、生活・体験期間としても短い。日本語力の向上や日本の社会での慣れが下支えとなって培われる、進路に向けてのモチベーションなどが不十分・不安定であることが、一番の理由だと思う。
- ・N3になかなか合格できないレベルの学生への大学進学やEJU対策授業が難しい。就職に関しては本人に任せている状況である為。
- ・対面授業の実施が少なく、高い意識を持って学習に取り組むことができていない学生が多い。
- ・入国前のオンライン授業時間が長かったため、例年に比べ、日本語到達レベルがひくい。また、例年より求人が少なく就職に結び付かない。
- ・入国が遅れたため学習期間が短い
- ・日本式のやり方がわからない学生が多いから
- ・マスク着用により、活発にコミュニケーションを促せない等、語学学習において厳しい状況での授業展開となっていること。
- ・対面授業の不足による日本語能力が厳しい状況
- ・求人日本語レベルが高い。
- ・母国からの経済的支援が充分ではない学生がいる。特にミャンマー出身者。
- ・コロナ禍でどうしても例年どおりにはなりにくい
- ・日本語学校の延長の類の専門学校に進学させるのは良くないと考えているから。
- ・今年度は進学対象者がほぼいないため
- ・日本語レベルに関わらず学生数確保を優先する専門学校が多いと感じている。専門学校卒業後の学生の進路などをしっかりと考えさせてくださっているのか疑問。
- ・途中で変わる人がいるから
- ・特定技能試験対策について学校側が何かしらすべきか検討中
- ・大学の受験内容に専門知識が必要だったため、指導教員にもある程度の知識が必要だった
- ・特定活動への対応
- ・人とのかかわりが希薄になっている気がします。
- ・人数が少ない分、コミュニケーションがよく取れ、進路指導がスムーズにできた。

3-4 進学先エリアの選定

進路選びに学校所在地がどの程度影響を及ぼしているかを調査した。「現住所から通えるエリアを第一志望にする学生が多い」が80%と、留学生は進学先選びの際に学校所在地を重視していることがわかった。

◇進学先選びの一般論として留学生たちの現住所から通えるエリアの志望度は高いですか？

回答数：113件



3-4 進学先エリアの選定

前問の「現住所から通えるエリアの志望度」に関する課題に対する具体的な理由を挙げてもらった。現在のエリアを選択を回答した理由は「住み慣れていること」「引っ越しやアルバイトなどの経済面」「進路」、他の地域を選択した理由は「近隣に学校が少ない」が主な理由として挙げられた。

◇前問「留学生の「進路指導」についての今年の課題」について理由を具体的に教えてください。

回答数：77件

〔「現住所から通えるエリアを第一志望にする学生が多い」を回答〕

- ・住み慣れた地域を好む学生が多い
- ・住み慣れた場所からはなれたくないから
- ・引っ越しを伴うことを嫌う学生がいる
- ・生活環境の変化を望まない学生が多い
- ・できるだけ都内の学校を希望する学生が多い
- ・住み慣れた場所から通いたいのと、友人が現在の住んでいる場所に多いから
- ・希望大学に入学できれば特に場所にはこだわらない（中国学生）ベトナム学生は今いるところに近い学校を希望
- ・慣れているから。町の規模が大きすぎず小さすぎず、ちょうどよい。
- ・すでに生活環境ができあがっているから
- ・近いから。
- ・慣れた環境での生活を希望する学生が多いから。
- ・地方に行きたがらない
- ・「慣れている」という理由が最も多いです。
- ・住み慣れている地域の希望者が多い。
- ・利便性のため
- ・引っ越しに手間がかかる…知り合いがいない…東京での生活に慣れ地方に行くのは考えられない学生が多い
- ・生活基盤ができているから
- ・外国において住み慣れた土地が安心だから。
- ・外国なので、住み慣れた土地がいい。
- ・引っ越しや各種手続きが面倒だということ、家賃節約のために友人同士で住んでいるため自分だけが引っ越せないという理由も聞きます。
- ・引っ越しを嫌う
- ・物価などの影響がなく、金銭的に計画が組みやすい、住み慣れた地での進学を検討している
- ・東京の便利さから離れたくないという学生が多い
- ・引っ越しの必要がないためや、地域に慣れ親しんでいるため。
- ・そもそも、東京が良い！と留学してきている学生達だから
- ・引っ越して環境変わって、友達もいないひ、アルバイトもなくなるのではという不安。
- ・大阪が好きで当校卒業後も住み続けたい、都会志向が強い学生が多い。
- ・住み慣れたエリアである、同国人が多くいて心強い、家賃や物価などが比較的安く暮らしやすい、転居にかかる費用を抑えたい、その他
- ・コロナ禍で不慣れた環境には行きたくない
- ・引っ越し等の煩雑さと、出来るだけ現在の慣れた環境を変えたくないことによる
- ・コロナへの懸念と現状維持のため
- ・住居を変わりたくない
- ・生活の基盤を変えたくないと思う学生が多い。
- ・引っ越しの手間を嫌がることと、友達やアルバイト先が変わなどの生活の変化を嫌うこと
- ・生活に慣れているため。また、今年はコロナの影響もあり、あまり都会に行きたがらない。
- ・見知らぬ土地への不安
- ・初めて生活する地域なので知り合いも多くでき、生活しやすいから。
- ・慣れた土地、引っ越しの費用など

3-3 進学先エリアの選定

- ・友人、バイト関係等、生活基盤ができあがっているため。
- ・住み慣れた環境
- ・正確にはわからないが、経済的な面も影響しているかもしれない。
- ・経済的な理由
- ・引っ越しなどして経済的負担がかかるのを嫌うため
- ・引っ越しの手間・お金の問題
- ・遠いと受験や引っ越しに費用が掛かる
- ・アルバイトをやめたら、次見つけるのが大変だからやめずに、今の生活を続けたいという学生が多い。
- ・引越し費用、アルバイト探しに苦労たくない
- ・がん住所から通えないエリアへの進学をするだけで、転居費用等としての支出・卒業～進学の期間アルバイトが途絶えることによる収入減、など経済的な問題が一番の理由。
- ・心理的、経済的負担が小さいからかと考えます。
- ・引っ越しする費用がない、知らないところの一から飛び込む勇気がない、アルバイトを変えたくない等
- ・現住所から通えるエリアに相応の学校があるから。
- ・元々、関西圏の進学先を希望して本校に入学しているため
- ・都市部で進学をしたい学生が多い
- ・京都の大学、専門学校、近畿圏の企業への就職を希望する学生の割合が高いため
- ・埼玉県県内や東京内にある学校に希望する人はもっと多い
- ・希望する大学が集まっているから
- ・渡航前から志望校を決めて、その近くに住んでいるので。
- ・関西圏にあるため、近隣の学校への希望が多い
- ・学内進学がほとんどである
- ・専門学校に関しては現在の居住地から近いエリアを希望する学生がほとんどで、大学に関しては自分のレベルに合った学校選択が優先される。

〔「他の地域を第一志望にする学生が多い」を回答〕

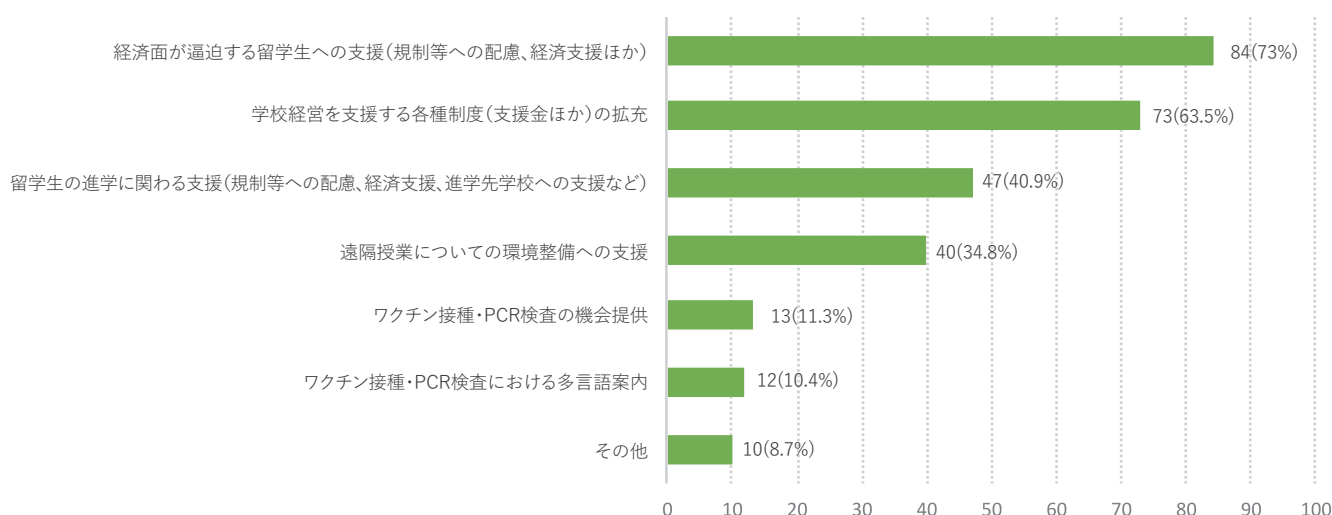
- ・先輩などの専門学校進学人が多い
- ・学校数が多い地域を志望している
- ・留学生向けの進路先が少ないため
- ・アルバイトの給与面でより高いところを求めているから
- ・友人や知り合いがいる地域への進学希望が多い
- ・県外への志望が多い
- ・都市部のほうが大学や専門学校が多い
- ・希望学部、レベルから県外を希望する学生もいる。
- ・それぞれのコミュニティーを通して、友達、或いは先輩が通っている地域を第一志望にしている。
- ・関東への進学希望は予想以上に多かった
- ・現住所から留学生が通えるような大学、専門学校が無いため
- ・当校は離島にあり、専門学校や大学がないため。
- ・近隣に学校が少ないため
- ・都会（特に東京）での生活を希望するため
- ・進学したい学校が、他の地域であるため
- ・県内に進学先が少ないから。
- ・学校が地方なので関東方面を希望する学生が多い

4-1 政府や自治体への要望

政府や自治体に期待する支援や配慮としては、「経済面が逼迫する留学生への支援」が最も多く、73%。次いで、「学校経営を支援する各種制度の拡充」63.5%が続き、学校への支援以上に留学生本人へのサポートを望んでいることがわかった。一方で、新型コロナウイルス関連の情報提供などの項目は回答率が低い結果となった。「遠隔授業についての環境整備への支援」も34.8%の回答があり、コロナ禍での学習が困難な状況がうかがえる。

◇政府や自治体に要望したい支援を教えてください。(複数回答可/3つまで)

回答数：115件



〔自由回答〕

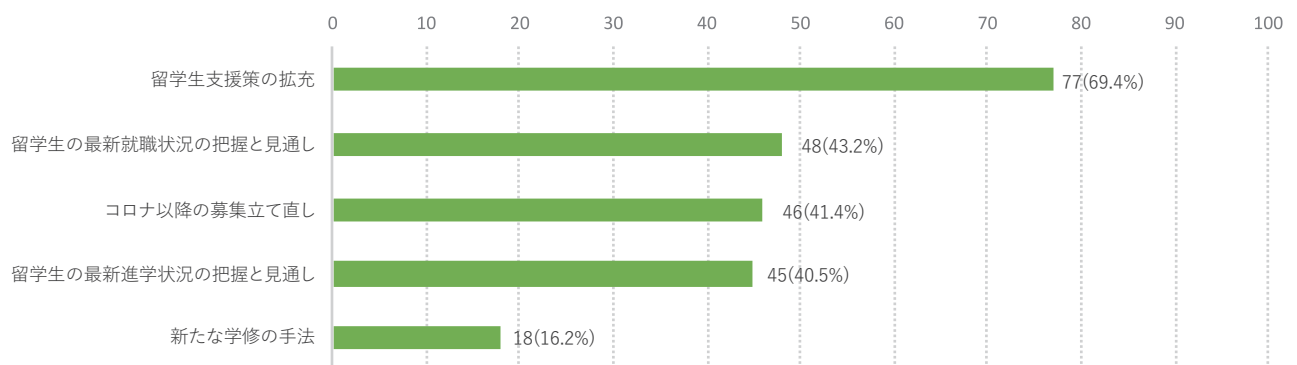
- ・留学生に対する税制（一定の収入額までは所得税免除）や国民健康保険（在学中は保険料を定額にする）、年金制度（在学中の保険料一律免除）での優遇・支援制度
- ・未入国留学生が入国するにあたり学校側の手続きの簡素化
- ・1日の入国者数の緩和、入国後の隔離期間の支援（PCR検査、宿泊などの費用）
- ・一棟借り上げ宿舍の空き部屋への補助
- ・適正校への在留資格審査の緩和
- ・入国規制の緩和・早期入国（5件の回答）

4-2 専門学校と日本語学校に関わるイベントへの期待

専門学校と日本語学校に関わるイベントに期待することとしては「留学生支援策の拡充」が最も多く、69.4%。「留学生の最新就職状況の把握と見直し(43.2%)」「コロナ以降の募集の立て直し(41.4%)」「留学生の最新進学状況の把握と見直し(40.5%)」はいずれも40%ほどの学校が希望すると回答した。

◇専門学校と日本語学校に関わるイベント(研修会、交流)等で、どのような内容を希望しますか?(複数回答可/3つまで)

回答数：111件



◇前問と付随して、どのようなイベントなら参加されますか?自由にご回答ください。 回答数：36件

- ・オンライン開催
- ・オンライン形式での研修 (研修後のフォローつき)
- ・オンラインで参加できるイベント
- ・オンラインの効果的な授業方法
- ・オンライン説明会(できれば、個別)
- ・オンライン等での募集広報の手法について。
- ・コロナ禍での学修の手法
- ・他校の学生と関わる機会 (交流会など)
- ・在校生と関わる事が出来るようなイベント
- ・日本語学校教員との交流会
- ・進学フェア及び就職フェア
- ・就職関連イベント
- ・もっと魅力的な日本留学を目指して、日本語学校⇒上級学校⇒企業等が1つのスキームとして機能するといった実例紹介とマッチングを目指したイベント
- ・専門学校卒業後の就職までを見据えて、どのように連携して教育を行なっていくか。
- ・進学、就職の最新情報がわかるイベント
- ・外国人材を受け入れてくれる企業様との交流会
- ・留学生の出口調査結果や、実際に就労や進学した学生のケーススタディ的なイベントがあるとありがたいです。
- ・学生募集時の共同説明会など
- ・学生募集の新たなあり方
- ・就職先と就職率
- ・奨学金や支援金等についての説明会
- ・在校生やOBやOGの話が直接聞けるようなイベント
- ・特定技能が広まりつつある今、専門学校の学生の卒業後の進路が気になる。(技人国での就職は難しくなっているのではないか)。それに関する情報を提供するイベント
- ・個別の進学相談会
- ・留学生施策について
- ・特に思いつかない。
- ・21の項目に関するイベント
- ・特になし
- ・入管との質疑応答
- ・個別面接会 (オンラインも可)
- ・思案中です。
- ・当校に必要と思われるもの
- ・奨学金の手厚いサポートが必要
- ・興味がある内容なら
- ・内容によります
- ・参加費無料で海外からの受け入れ学生募集イベント

4-3 大専各への意見や要望

◇大専各に対するご意見ご要望などがありましたら自由にお聞かせください。(任意) 回答数：12件

- ・今後共、よろしくお願い致します。
- ・特にありません、いつもありがとうございます。
- ・いつも積極的な取り組みと、またさまざまな情報のご提供、ありがとうございます。
- ・日本語教育機関との連携を更に強くしてほしい
- ・コロナ禍における他校、進学・就職先の情報を共有していただいたり、今後の展望予測等最新情報をご提供いただけましたら非常にありがたいです。
- ・入国緩和を見込んで申し込みをしていたEJU・JLPTの、受験料の返還または母国での受験振替などの措置を交渉いただきたかった。
- ・留学生の就職をより広く
- ・大専格共通の入学志願書があるとありがたい。入学願書のフォーマット違うことがかなりの負担で、複数校の出願をなるべくなるべく避けたいという心理が働いてしまう。共通のフォーマットを用意できれば、出願側、受け入れ側の双方に利があると思う。
- ・企業とのマッチングや外国人材受け入れに関するセミナーなど希望します。

(「なし」の回答3件)

令和3年度文部科学省委託事業

「専修学校留学生の学びの支援推進事業」

留学生に関する実態把握アンケート調査報告書

[日本語学校対象]

発行日 2022年2月 第1版

受託 一般社団法人大阪府専修学校各種学校連合会

編集 一般社団法人大阪府専修学校各種学校連合会
(データ集計・分析 株式会社アクセスネクステージ)

住所 〒534-0026 大阪府都島区網島町6-20 大阪私学会館1F

TEL 06-6352-0048 FAX 06-6352-7553

大専各サイト <https://daisenkaku.or.jp/>

大専各留学生支援サイト <https://study-osaka.com/>